

2024年10月

# CWS JAPAN NEWSLETTER NO.97

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、  
ご理解をいただき、ありがとうございます

## 新理事体制の お知らせ

CWS Japanは2024年9月27日(金)に開催された総会において、本年度の理事の選任を行いました。

新たに小海光氏が理事長に就任し、藤守義光氏が理事に加わりました。

お二人のプロフィール・メッセージをご紹介します。

### 新理事長・小海 光 (こかい ひかり)



新理事長・小海 光

#### <プロフィール>

日本基督教団の牧師の家庭に育ち、東京神学大学博士課程前期修了後、ボストンに留学。ボストン大学神学部で牧会カウンセリングとキリスト教教育を学びました。合同メソジスト教会の牧師として、ニューイングランドとニューヨークで5教会に仕え、25年をアメリカで過ごしました。2012年より合同メソジスト教会宣教師として南青山に建てられた公益財団法人ウェスレー財団に派遣され、代表理事として女性のエンパワーメント、次世代の国際的リーダーシップ育成、人道支援の3つのミ

ッションのために仕えています。韓国人牧師の夫と、アメリカ生まれの娘2人の家族がいます。

#### <メッセージ>

この度、CWS Japanの理事長になりました、小海光です。

CWSとの出会いは、アメリカ合衆国のニューイングランドとニューヨーク地区の教会で牧師として仕えていた1990年代に始まりました。CWS (Church World Service) は、第二次世界大戦後、17のキリスト教団・教会が、協力して人道支援を行っていくために立ち上げたNGOです。現在では、その協力の輪は世界中に広がり、災害・紛争緊急支援を始め、貧困・飢餓、難民のための人道的支援を75年以上続けてきています。わたしが仕えていた教会でも、教会学校やミッショングループを通して、CWSの活動を支援していました。

2012年より、生まれ育った母国に、宣教師という形で派遣されることになり、戦後の日本がCWSの支援を受けていたこと、2011年の東日本大震災の折、CWS Japanが立ち上がったことを知りました。

今回CWS Japanの理事長としてその働きのために仕えることができますことは大きな喜びであり、感謝です。どうぞよろしくお願い致します。

## 新理事・藤守 義光 (ふじもり よしみつ)



新理事・藤守 義光

### <プロフィール>

わたしは日本キリスト教協議会（NCC）の事務局を取り仕切る総務という仕事をしています。NCCは日本で一番古いプロテスタントの組織で、教会やキリスト教系の団体が、キリスト教の宣教だけでなく、様々な社会的課題に取り組むために、連携し協力することを目的として設立された組織です。同時に、NCCが組織している人道支援組織、ACTジャパンフォーラムの事務局をCWS Japanと共に担っています。また、長く大学で教えていた繋がり、現在でも宗教や社会学関連の科目を教えています。

### <メッセージ>

不思議な導きでCWS Japanの理事をお引き受けることとなりました。CWS Japanとの関わりは長く2014年にさかのぼります。当時ウェスレー財団の職員として、合同メソジスト教会救済局（UMCOR）の東日本大震災支援助成金のコーディネーターをしていました。そのときにCWS Japanが関わるいくつかのプロジェクトを支援することになり、小美野事務局長、牧職員と出会うことになりました。その関わりは、わたしがNCCに移った後も、最初はオフィスの「ご近所さん」として、そしてやがてACTジャパンフォーラムを立ち上げ、運営するという形でつながり続けることになりました。多くの職員の方ともすでに顔なじみであり、理事としては新人ですが、全く新人という感じがありません。社会の最も小さくされている人々に仕えるというキリスト教のスピリットを共に担うことが出来ればと願っています。



### 新理事体制について

2024年9月27日からの理事体制は下記の通りです。★=新任

小海 光（公益財団法人ウェスレー財団 代表理事）

龍 信之助（医療法人RMDCC 理事長）

田島 誠（特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所 理事・特任研究員）

リーバーク キャサリン（Church World Service Vice President Programs）

藤守義光（日本キリスト教協議会 総務）★

小美野 剛（特定非営利活動法人CWS Japan 事務局長）

元川 士郎（監事）

小松田 貞利（監事）

国内外で災害対応・防災支援に取り組むCWS Japanは、引き続き災害時に誰一人取り残されることがない社会に向けて活動に取り組みます。

今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

# ハザードマップ制作 スキル研修とは？ パキスタン農村地域 ×防災力向上支援

インターン生の村上です。先日、パキスタンにおける防災力向上支援事業の一環として行われた、ハザードマップ作成研修についてお届けします。

## 防災力向上支援とは

2022年にパキスタンで起きた洪水以降、CWS Japanは被害者の生命をつなぐために、キャッシュ配布事業や水資源管理のためのインフラ施設建設計画など、さまざまな形で支援を行ってきました。

2024年3月に開始した、パキスタン・シンド州の農村地域におけるプロジェクトでは、緊急支援のフェーズから一歩進み、将来的に発生する災害への防災力強化を目的とした、“防災力向上支援”をメインに行っています。

▼パキスタン・シンド州の現地パートナーとの打ち合わせ、現状視察についての出張報告の記事はこちら



防災力向上支援と言っても具体的に何をするのかというと、今回対象としているシンド州ウマルコートは、2022年の洪水で農作物の収穫量が約80%減少し、農業インフラの復興を最優先事項として支援を進めてきました。中長期的な今後の持続可能な発展を鑑みると、インフラの再建・建設と同時に、住民の意識・知識の向上や現地行政機関の災害対応力強化へのアプローチも重要だと考えられます。このような背景から、農村も含めた災害リスクをより適切に判断するための、ハザードマップ作成研修を実施しました。

## 現地調査とハザードマップ作成研修

研修は3日間に渡って行われ、1日目は、地図を参照しながら実際に現地を歩いて地形を確認する、ハザードマップ作成のための現地調査が行われました。

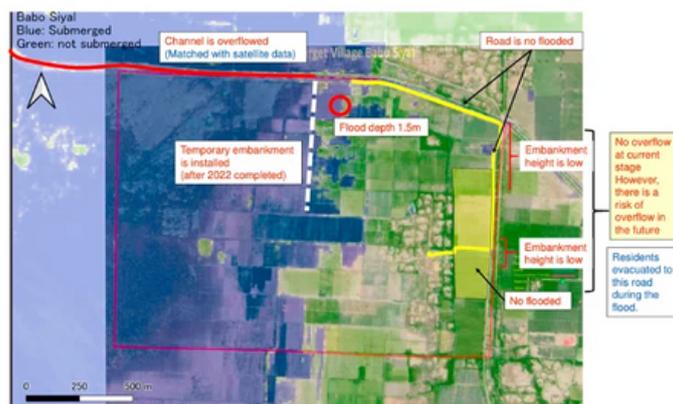


マップ片手に現地調査を行う様子 ©CWS Japan



現在の灌漑（かんがい）用水路 ©CWS Japan

シンド州ウマルコートは洪水と干ばつを繰り返しており、昔から灌漑（かんがい）用水を確保していたため、地形判読で水系を読むことは簡単ではありません。実際に現地を歩きながら洪水の深さや期間、道路の冠水状況、住民の逃避状況などを確認することは、ハザードマップを作成する上でとても重要で、このような工程を経てハザードマップを作成します。



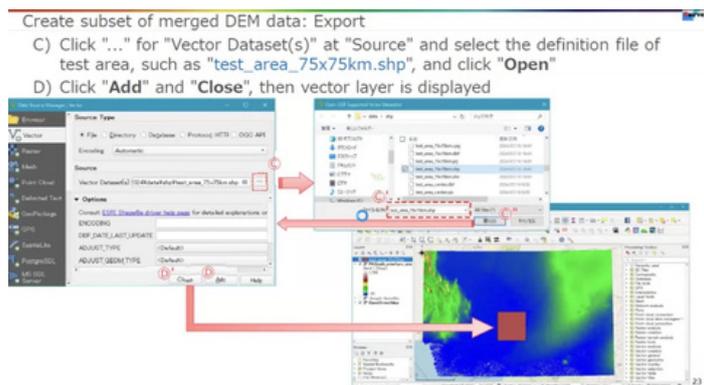
現地調査の結果 ©CWS Japan

2日目と3日目は、オンラインでQGISを使用したハザードマップ作成研修を行いました。QGISとは、GIS（地理情報システム）データを扱う無料のソフトウェアで、地図上でデータの閲覧や編集、分析などをすることができます。無料にも関わらず高い機能と操作性を備えているため、ユーザーも多く、わたしが所属する大学でもQGIS講座は人気を博しています。今回は、このQGISを使ってハザードマップを作成する方法を、支援対象の村を管轄する行政機関および防災・農業関連団体の職員に対して行いました。

わたしは日本からこの研修にオンラインで参加していましたが、現地の回線環境が芳しくない中、英語で意思疎通を図りながらマップを作成していく過程からは、オンラインで技術を伝授することの難しさなど、学ぶことが多かったです。



QGIS研修を受ける現地機関の職員たち ©CWS Japan



実際にQGISを操作してハザードマップを作成  
©CWS Japan

## 研修を経て期待すること

CWS Japanとして、最終的にはハザードマップ作成研修を受講した現地行政機関職員の6割程度が、自ら実践的にハザードマップを作成できるようになることを目指しています。実際に研修に参加した職員の数に限られますが、現地職員により適切なハザードマップが作成されることで、彼らが管轄する県の住民や地域コミュニティにもハザードマップの情報が広く共有され、地域全体の防災への理解と意識の向上を期待しています。

ゆくゆくはパキスタンの地域住民が主体となって、外部の支援に頼ることなく防災計画を進める体制が整えられるように、これからもCWS Japanとパキスタン地域住民一丸となってこのプロジェクトを進めていきたいと思えます。

(文：インターン 村上琴美)

 皆さまのご理解・ご支援を心よりお願い申し上げます。

継続的な  
寄付

今回のみ  
寄付

# 国際防災の日に 寄せて 防災における子どもたち と若者の重要性

皆さん、こんにちは。事務局長の小美野です。毎年10月13日は国連が定めた国際防災の日となっていて、2024年のテーマは「次世代をエンパワーし、レジリエントな未来へ」。防災における子どもたちと若者の重要性に焦点を当てています。

▶[国連防災機関コンセプト詳細はこちら](#)

## 2024年のテーマの重要性

気候変動の影響により、災害のリスクは増大しています。約10億人の子どもたちが気候変動の影響による極めて高いリスクに直面していると言われています。2024年のテーマ「次世代をエンパワーし、レジリエントな未来へ」は、子どもたちと若者を災害から守り、同時に彼らを変革の担い手として育成することの重要性を強調しています。5人に1人は被災すると言われる程、災害は身近なものになっています。

## 各国への行動の呼びかけ

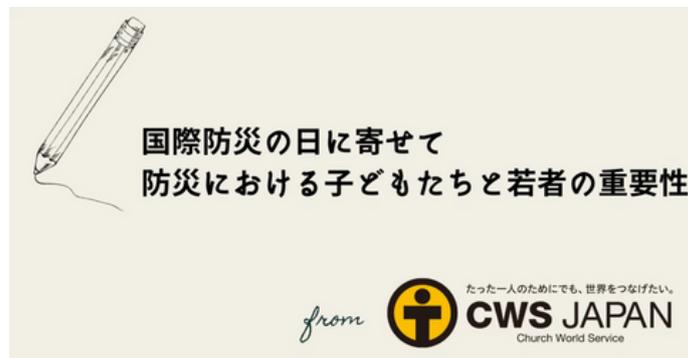
2024年の国際防災の日は、以下の2つの重要な分野への投資を各国に呼びかけています。

### ①安全な学校と教育施設を通じた子どもと若者の保護

子どもたちは学校で安全であるべきで、学校を災害に強い施設にし、早期警報システムが教育環境と繋がっている必要があります。

### ②年齢に応じた教育を通じた子どもと若者のエンパワーメント

子どもたちが直面するリスクを理解し、行動できるようにすることが重要です。これには、早期警報に対して早期減災行動をとる準備も含まれます。



## わたしたちにできること

わたしたち一人ひとりが、子どもたちと若者の安全を守り、エンパワーすることで、より強靱な社会を作ることができると思います。次世代に知識やノウハウを伝えていく事は今後の防災にとって非常に重要です。2024年の国際防災の日を機に、「より安全・安心な暮らしのために、自分たちには何ができるか」を、考え話し合ってみるのも良いかもしれません。

10月14日からはフィリピン・マニラにてアジア太平洋閣僚級防災会議が開催されます。

▶[アジア太平洋閣僚級防災会議詳細はこちら](#)

CWS Japanも他のアジアの仲間達と一緒に地域の防災リーダーを表彰したり、早期警報から早期減災アクションにつなげるテーマのセッションに登壇したりしていきます。仲間の輪を広げ、災害に負けない社会へのムーブメントを更に強化していけるよう、取り組みを続けていきます。

(文：事務局長 小美野剛)

# 「映画上映会」や 「大久保まつり出 店」と盛りだくさん！ 10月のコミュニティ・カ フェ@大久保

こんにちは！CWS Japanの五十嵐望美です。  
普段は月2回のみオープンしてさまざまなイ  
ベントを行なっているコミュニティ・カフェ@大  
久保ですが、10月はカフェを4回もオープンし  
て盛りだくさんでした…！今回はそのレポ  
ートをお届けいたします。

## オレンジえがおとの協働企画『今昔物 語』上映会

10月2日(水)には、新宿区で認知症の理解促進  
のための活動を行なっている「新宿チームオ  
レンジえがお」との協働により、『今昔物  
語』の上映会を開催しました！



当日は認知症当事者である大久保新さんが演  
出を手掛けた紙芝居形式の素敵なイラストと  
ナレーションとともに、『今昔物語』の上  
映を楽しみました。(会場では紙芝居で使わ  
れた、さまざまなかわいらしいイラストのボ  
ード展示も…！) また、会場には多くの認  
知症サポーター※や地域関係者の方たちが  
集まり、とても温かい雰囲気での素敵な交  
流イベントとなりました。

※認知症サポーターとは、認知症に関する知  
識や理解を身につけ、地域や職域で認知症  
の人やその家族を支援する人のこと。認知  
症サポーターが増えることで、認知症当事  
者・ご家族の方々が安心してサポートを受  
けて住めるようなまちづくりが各地で取  
り組まれており、新宿区でも一般向けの  
認知症サポーター養成講座を受けること  
ができます！

▶養成講座詳細はこちら

## 映画『牛久』上映会&トークイベント



10月6日(日)には、日本福音ルーテル東京教会  
との共催により、2022年に劇場でも上映  
されていたドキュメンタリー映像作品の『  
牛久』の自主上映会と、上映後には本作  
品の製作関係者を囲んだトークイベント  
を開催しました



▶映画詳細はこちら



作品自体がかなりセンシティブな内容を扱  
うため事前申し込み制とさせていただいた  
本イベントですが、当日は飛び込み参加の  
方も含めて、会場が人でいっぱいになる  
ほど本当に多くの方にご来場いただき  
ました。

現在はこのような上映会の機会ではしか  
観ることができない中、鑑賞した皆さん  
の感想・コメントから、この作品で記  
録された証言や映像によって明るみ  
になった入管施設に収容された非正  
規滞在者、難民申請者の方々が置か

れてきた実態について、その衝撃の大きさが伝わってきました。

また、上映後に開催されたトークイベントでは本作品を撮影・監督されたトーマス・アッシュ監督のほか、牛久入管での面会活動を行う支援者の方、そして本作品にも登場していたPさんも登壇し、製作に至った背景や今の入管・難民申請者が置かれている状況、そしてPさんがこの作品の出演を承諾した思いなどについてお話しいただきました。

「一人でも多くの日本社会に生きる人々にこの事実を知ってもらい、支援の輪に加わって欲しい」という想いで今回企画した上映会イベントでしたが、イベント終了後にも多くの参加者が残って登壇者やスタッフに話しかけていた様子や、事後アンケートで寄せてくださった感想からも、その目的が達成されたように感じました。

## 毎年恒例の大久保まつりに、ワールド・バザールとして今年も出店！

10月14日(月・祝)には、昨年に引き続き、毎年恒例の大久保まつりに、コミュニティ・カフェ@大久保もワールド・バザールとして参加しました！

今年はお天気に恵まれ、秋晴れのお出かけ日和の中、新大久保・大久保エリアがたくさんの方で賑わう一日となりました☀



晴天の中、ワールドバザール会場の目の前の大久保通りは歩行者天国となり、さまざまなパレードも行われました©CWS Japan

そして、わたしたちが主催したワールド・バザールでは、スリランカ、エジプト、イラン、チュニジア、ミャンマー、ネパールの6カ国から出店があり、それぞれの文化を堪能できる品物がブースに並べられました。



今回もスリランカから、アーユボーワンさんがたくさんフードやドリンクなどを用意して販売してくださいました！©CWS Japan

コミュニティ・カフェ@大久保  
今年も大久保まつりに出店決定！

# World Bazaar in 大久保まつり

10月14日(月・祝)  
11:00~16:00

日本福音ルーテル東京教会  
東京都新宿区大久保1-14-14  
(JR新大久保駅から徒歩5分)

イラン、エジプト、スリランカ、  
チュニジア、ミャンマーなど  
世界の回々の料理や雑貨を楽しめます！

問い合わせ CWS JAPAN 牧 ☎03-6457-6840  
PUBLIC@CWSJAPAN.JP



手前はエジプト雑貨！右奥はチュニジアチームが国旗の旗を飾ったり帽子も身につけたりなど、  
気合いを感じました。©CWS Japan

当日は、オープンの時間まで一部の出店者たちの準備が間に合わず、その後も裏のキッチンで黙々と料理を続ける出店者たちの姿に、ハラハラする場面も…笑(初めの時間に来られた方にはお目当てのフードが購入できず、申し訳ありませんでした…)



裏のキッチンでは、チュニジアやイラン、  
(ここには写っていない)ネパールチームが最後まで懸命に料理を作っていました！©CWS Japan

しかし、多くの人で賑わう会場に来られたお客さんに向けて、ハキハキと笑顔で声掛けしながら会話を楽しんでいたたり、ブースに来てくださった方も普段見られない品々に関心を持って出店者との交流を楽しんでいたたり、大盛況に終わることができました！！



ネパールチームは親子で駆けつけてくれました！  
売り込みの声掛けもひとときわ際立っていました  
©CWS Japan

また来年以降もこのような形で、地域の方との関わりを持ちながら、より多くの方にカフェの活動や多文化共生の取り組みについて知っていただき、地域に根ざした活動を続けていけたらと思います。



## 初のWeekendカフェ！難民等生活者のライフステージと日本語学習ケーススタディ

10月19日(土)には、週末カフェとして、和田貴子さんを囲み「難民等生活者のライフステージと日本語学習ケーススタディ」を開催しました！

Weekendコミュカフェ

## 難民等生活者のライフステージと日本語学習ケーススタディ

コミュニティ・カフェ@大久保では、2023年のカフェ活動とほぼ同時に難民申請者生活支援の一環として、無料の日本語学習支援を開始しました。不安定な生活を強いられる当事者が学習を継続するには様々な困難があり、私たち支援者も変化に対応すべく試行錯誤を繰り返しています。今回の企画では、このような学習者への支援経験豊富なゲストを迎え、お互いの経験を共有し、学び合います。

ゲストスピーカー ▶ 和田貴子 さん

名古屋YWCA職員を経て、2024年～HORIZOPIC代表理事。文科省地域日本語教育スタートアッププログラムアドバイザーを務め、大学機関において留学生に日本語教育も行う。一般社団法人多文化社会専門機構メンバー



日時

2024 **10/19** 土  
14:00 ▶ 16:00

会場

コミュニティカフェ@大久保  
(日本福音ルーテル東京教会内)  
東京都新宿区大久保1-14-14  
(最寄り駅：JR新大久保駅、100円ショップCan Do並び)

こんな人におすすめ

日本語教育 難民支援 多文化共生

これらの分野に関わる、または関心がある市民・学生・研究者など

予約  
不要

参加費  
無料

この事業は文化庁「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育の委託事業です。

主催：コミュニティカフェ@大久保

問い合わせ：CWS Japan 牧 (03-6457-6840、public@cwsjapan.jp)



今回はグループワーク形式で、普段コミュニティ・カフェが日本語学習支援をしている難民申請者のケースを用いて、参加者の皆さんと情報を整理して意見を出し合いながら、学習者のニーズについてディスカッションしました。

そこでは、ネガティブ・ケイパビリティ (Negative capability) 「答えを急がない。答えの出ない事態に耐える力」という考え方を学び、先が見えない・結論が出ない曖昧な状況の中で不安を抱えながら生活している難民申請者の方にも、日本語を身につけることで少しでも「前進している」「昨日よりも今日、今日よりも明日」と前向きになれるよう、伴走支援を行っていることを改めて感じる機会になりました。



グループに分かれて、意見を出し合ってもらいながら、議論を深めました！ ©CWS Japan

## 11月のカフェ企画のお知らせ

11月は以下のカフェ企画を予定しています！

### ①11月6日(水)多文化共生防災街歩き

※日本語学校の学生向けのクローズド企画なので、他の方はご参加いただけません。教会では通常のカフェ営業を行います！

### ②11月20日(水)日本の遊びを体験してみよう

学生の持ち込み企画として、昔ながらの伝統的な遊び(けん玉、折り紙、福笑い)を通して、日本の文化が体験できます！

今年も残りわずかとなりますが、お時間ある時はぜひカフェにお立ち寄りください🍵

特定非営利活動法人CWS Japan

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館25号室

メールアドレス:

public@cwsjapan.jp

電話:

03-6457-6840



[CWSJapan](https://www.facebook.com/CWSJapan)



[@Japan\\_CWS](https://twitter.com/Japan_CWS)



[cws\\_japan](https://www.instagram.com/cws_japan)